

15カ国527社出展、12万人が入場

国際福祉機器展HCR'17開く

アジア最大級の介護・福祉機器分野の展示会「第44回国際福祉機器展HCR2017」が9月27日から29日までの3日間、東京ビッグサイトで開催され、12万1528人が訪れた。今年は15カ国1地域から527社(日本447社)が出展し、ハンドメイドの自具から最先端技術を活用した介護ロボットまで約2万点を展示、最新の福祉機器を見て触って確かめられる場となった。出展社の多くが前年よりも展示ブースを拡充しており、来場者により多くの有益な情報を発信していた。



にぎわう会場内

高齢者・障がい者の自立生活を支え、社会参加を促進するために、福祉機器の果たす役割は益々重要なものとなっている。HCR2017では、車いすや介護ベッドのほか、食品・衣類から福祉車両・住宅改修用機材まで、多種多様な福祉機器・用品とその関連情報を幅広く提供した。

今回、出展社展示ブースや主催者企画の充実が図られた一方で、障がい者や要介護者などの生活の質を支える福祉機器や関連イベントを、ゆとりをもって見られるように、会場内のスペースや来場導線への配慮も強化された。

国際シンポジウムでは、要介護高齢者等の家族介護への支援の取り組みについて、法施策を整備し先駆的な実践を展開しているイギリスから講師を招き、その現状と展望、また日本の現状についての議論を踏ま

え、今後のあるべき取り組みを考察した。HCRセミナーでは、連日多彩なテーマで開催。初心者を対象とした福祉機器の選び方・使い方については10テーマで展開され、▽高齢者向けの手軽な食事▽一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術▽福祉施設における感染症の知識と対応―など、利用者・

家族に役立つテーマに関心が高かった。福祉機器開発最前線コーナーでは、家庭用トイレに組み込まれた世界で初めての排泄ケア支援ロボットが注目された。ロボットアームが臀部に残った水分を自動で拭き取るため、介護者は臀部を拭かれる抵抗感や不安感を拭き、遠慮や我慢をせずに自由に排泄できる。さらに衛生的で感染予防にもなる。また、視覚障がい者や視機能が低下した高齢者向けに、目の前にある文字をカメラで撮影し、文字認識技術でテキストデータに変換し、それを音声として読み上げる眼鏡も人気を博した。

業界関連では、アサヒグループ食品、安寿/アロン化成、宇都宮製作/暮らし生き活き、キューピー、島製作所、象印ペビー、玉川衛材、ダンロップホームプロダクツ、日本介護食品協議会、ビーセレクト、ピジョンヒラ、リッチェルなどが出展し、新商品や主力商品をアピールした。

なお、今回のHCRは、18年10月10日から12日まで東京ビッグサイト東展示ホールで開催される。



ピジョントイレ



宇都宮製作



日本介護食品協議会

外傷救急薬

タマカワ
玉川衛材株式会社

日本医療衛生新聞

発行所
株式会社 日本医療衛生新聞社
大阪市中央区高麗橋1丁目5番11号
電話 06(6202)5588番
FAX 06(6202)5628番
取引銀行 三菱東京UFJ銀行都島支店

PIGEON
ピジョン株式会社
東京都中央区日本橋久松町4番4号
TEL. (03) 3661-4200(代表)
●仙台支店・東京支店・名古屋支店・大阪支店・広島支店・福岡支店